

北京オリンピック“なでしこジャパン”の加藤・荒川両選手との交流会

～ 8 年後には東京でオリンピックを！！ ～

本日、区立仰高小学校で、北京オリンピックでベスト4に輝いた女子サッカー代表から、選手 2 名を招いて児童との交流会を開催した。来校したのは、加藤與恵選手と荒川恵理子選手（日テレベレーザ所属）。児童たちは質疑応答や、リフティング、ドリブル、シュートなどの実演、選手とのドリブル競争など、約 1 時間の交流会をたっぷり楽しんだ。

オリンピックに出場した選手との交流を通して、努力の大切さを身をもって学ぶことを目的に交流会を開催した。また、全校児童にオリンピック招致への関心を持ってもらい、女子サッカー競技の応援も込めている。

同校の 3 年生が、10 月に開催した東京よさこい大会で“2016 年の東京オリンピック招致”のために踊ったことがきっかけで、同校の保護者の紹介で両選手を招いた交流会が開催できた。

| | | |
|------------------------------|---|--|
| 日 時 | 11 月 17 日（月曜日）午前 9 時～10 時 | |
| 場 所 | 区立仰高小学校（駒込 5-1-19 石塚吉之校長 全校 351 名） | |
| 来 校 者 | 北京オリンピック出場 女子サッカー選手 加藤與恵選手（日テレベレーザ所属）、荒川恵理子選手（同） | |
| 当日の様子 参加者の声 など | <p>石塚校長が「2016 年に東京でオリンピックがあったら、今の 6 年生は 20 歳、1 年生は 15 歳ですね。みんなが東京でオリンピックを迎えられたらいいですね」と挨拶。</p> <p>交流会では、女子児童も多く希望して実技指導に参加した。元気いっぱいの児童たちは、両選手とコーンドリブルやリフティングの競争に真剣に挑戦していた。</p> <p>児童からは実技についての質問が多く、加藤選手が「リフティングは、サッカーの基本中の基本。ボールを良く見て」「守りの時には、相手の動きを良く見てだまされないように」など、一つひとつプレーをしながら答えていた。「ドリブルが上手くなるにはどうしたら良いですか」との問いに、荒川選手は「うちはラーメン屋だったので、商店街のお客さんを敵に見立てて、ドリブルで抜いたりして練習していました」とユーモラスな答えも。</p> <p>「どうやってオリンピック選手になったのですか」との問いに、荒川選手から「選手になってからは、骨折や怪我をしても『絶対にオリンピックに行くぞ！』と強い気持ちを持っていたから出られたのかなと思います」と気持ちの持ち方が大切との答えがあった。</p> <p>シュートを受けた 6 年生男児は「球がすごく速かった！憧れのオリンピック選手に会えてすごく嬉しかったです」と喜びを語ってくれた。</p> | |
| 写 真 * 写真はメ ールで送り ます | <p>ドリブルで競争 10 : 2 人でも選手の勝ち</p>  | <p>シュート！！「すごく球が速い！」</p>  |
| 問 合 せ | 教育指導課 | |